

平成 29 年 3 月 24 日
愛 媛 大 学

世界初の官民パートナーシップ「GHIT Fund」から マラリア伝搬阻止ワクチン開発の研究に助成金交付が決定！ (記者会見の実施)

このたび、愛媛大学プロテオサイエンスセンターを含む研究グループによる「マラリア伝搬阻止ワクチン開発：Pfs230 抗原デザインと提示」に関する研究に対し、公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)から、助成金として約 6,000 万円が交付されることになりました。本研究は、米国 PATH(Program for appropriate Technology in Health) マラリアワクチンイニシアティブと共同で実施、研究期間は平成 29 年 4 月から平成 31 年 3 月の 2 年間を予定しています。

GHIT Fund から本学へのマラリア研究助成金採択は、今回で4件目であり、日本のアカデミアでは最多です。

つきましては、下記のとおり記者会見を実施いたしますので、是非取材くださいますようお願いいたします。

記

日 時：平成 29 年 3 月 31 日(金) 10 時 00 分～11 時 00 分(受付 9 時 30 分～)

場 所：愛媛大学医学部管理棟 2 階 中会議室(東温市志津川) ※別紙参照

会 見 者：愛媛大学プロテオサイエンスセンター長 坪井 敬文(つぼい たかふみ)

愛媛大学プロテオサイエンスセンター准教授 石野 智子(いしの ともこ)

愛媛大学プロテオサイエンスセンター助教 橘 真由美(たちばな まゆみ)

駐車場：有(お車でお越しの方は、無料駐車券をお渡します。受付にお申し出ください)

※記者会見終了後、研究室に移動してマラリア原虫や飼育中の「蚊」などの見学を予定しています。

研究の概要等は、別添資料をご参照ください。

【公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)】

日本政府(外務省・厚生労働省)、民間企業(アステラス製薬・エーザイ・塩野義製薬・第一三共・武田薬品工業)、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、国連開発計画(UNDP)が 2013 年 4 月に設立した、世界初のグローバルヘルス官民パートナーシップで、その後多くのパートナーが参画しています。日本の革新的技術を基盤として、開発途上国に蔓延する感染症の新薬、ワクチン、診断薬等の新しい医薬品の研究開発および製品化を促進することにより、グローバルヘルスへ貢献することを目的にしています。

本件に関する問い合わせ先

研究支援部研究支援課
(プロテオサイエンスセンター)

副課長 猪野 周宣

TEL: 089-927-9686/Fax: 089-927-8528

※送付資料 4 枚(本紙を含む)

3月31日(金)、10:00AM 報道発表資料

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 GHIT Fund (Global Health Innovative Technology Fund) からの助成金交付決定について

2013年4月に設立された公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund:ジーヒット・ファンド) の研究助成金が、米国 PATH (Program for appropriate Technology in Health)マラリアワクチンイニシアティブ (PATH-MVI) と愛媛大学プロテオサイエンスセンターの2者で行う「マラリア伝搬阻止ワクチン開発: Pfs230 抗原デザインと提示」に関する研究に対して交付されることが決定しました。助成金額は約 6,000 万円、研究期間は平成 29 年 4 月から平成 31 年 3 月までの 2 年間で予定しています。

1. 研究の概要

マラリアは、蚊で媒介される寄生虫病で人類に甚大な危害を及ぼすグローバルな保健課題の1つです。2005年頃からはマラリアによる死亡者数は減少傾向に転じましたが、依然として発展途上国を中心に世界で毎年数億人が罹り、死亡者数も 40 万人以上に及んでいます。流行地では、治療薬や蚊を殺す殺虫剤がマラリア対策として普及していますが、どちらも薬剤耐性が問題となっています。そこでマラリア対策の切り札としてワクチン開発がこの 40 年間取り組まれてきましたが、未だ実用化されていません。現在第 3 相臨床試験が終了したワクチンが 1 つだけありますが、その有効性は約 30%と低く、それを補完する新たなワクチンの開発が必要となっています。中でも、人から蚊へのマラリアの感染を阻止するマラリア伝搬阻止ワクチンは、吸血した蚊の中でマラリア原虫を殺すユニークなワクチンで、マラリアの撲滅に不可欠と考えられています。しかし、これまでに研究されてきた伝搬阻止ワクチン抗原はわずかに 2 種類 (Pfs25, Pvs25) しかなく、いずれも開発の初期段階で止まっています。そこで本研究プロジェクトでは、1) コムギ無細胞タンパク質合成技術を用いたマラリアワクチン研究の経験が豊富な愛媛大学プロテオサイエンスセンター、2) マラリアワクチン開発の臨床試験の経験が豊富な PATH-MVI の 2 者が共同で、プロテオサイエンスセンターが研究を続けてきた伝搬阻止ワクチン候補抗原 Pfs230 の実用化に向けた研究を進めます。

この研究が成功すれば、これまで開発が困難を極めていたマラリア伝搬阻止ワクチンの開発を加速することができ、マラリア撲滅に向けた一歩につながります。このことは、コムギ無細胞タンパク質合成法という愛媛発の革新的技術が、グローバルヘルスの最重要課題の一つであるマラリア対策に貢献できることとなります。

※共同研究を実施する各機関における担当部門は、別添の概略図を御覧ください。

2. 参考

<公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund:ジーヒット・ファンド)について>

GHIT Fund は、日本政府（外務省・厚生労働省）、民間企業（アステラス製薬・エーザイ・塩野義製薬・第一三共・武田薬品工業）、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、国連開発計画（UNDP）が共同出資して 2013 年 4 月に設立した、世界初のグローバルヘルス官民パートナーシップで、その後多くのパートナーが参画しています。GHIT Fund は、日本の革新的技術を基盤として、開発途上国に蔓延する感染症の新薬、ワクチン、診断薬等の新しい医薬品の研究開発および製品化を促進することにより、グローバルヘルスへ貢献することを目的としています。また GHIT Fund は、日本の企業や研究機関と PDP（医薬品開発パートナーシップ）など海外の研究機関とのグローバルな連携を促進し、助成金の交付を通じた連携の支援を使命としており、その助成金は、開発途上国に蔓延する三大感染症（HIV／エイズ、結核、マラリア）および NTD (Neglected Tropical Diseases: 顧みられない熱帯病) の新薬、ワクチン、診断薬等の研究開発を対象としています。

HP <https://www.ghitfund.org/jp>

<PATH-MVI について>

米国 PATH は、ビル・メリンダゲイツ財団や米国政府等から寄附を受けている NPO 団体で、その中でマラリアワクチン開発を行うのがマラリアワクチンイニシアティブ Malaria Vaccine Initiative (MVI) です。プロテオサイエンスセンター長の坪井教授は、H22～H23 に PATH-MVI との共同研究「5つの伝搬阻止ワクチン抗原の合成」に対して US\$ 188,500 の助成を受けた実績があり、また H25～H26 には PATH-MVI 及び愛媛大学発のバイオベンチャー株式会社セルフリーサイエンスとの共同研究「マラリアワクチン開発を加速する候補抗原の新規検証法」に対して GHIT Fund から US\$600,000 の助成を受け、さらに H26～H27 には PATH-MVI との共同研究「マラリア撲滅に有用な新規マラリア伝搬阻止ワクチンの開発」に対して GHIT Fund から約 7,660 万円の助成を受けた実績があります。

HP <http://www.malariavaccine.org>



公益社団法人
グローバルヘルス
技術振興基金

Global Health Innovative Technology Fund

「マラリア伝搬阻止ワクチン開発：Pfs230抗原デザインと提示」
に対する研究助成決定



米国NPO

PATH マラリアワクチン・イニシアチブ

実績: マラリアワクチン臨床開発

役割: ワクチン効果の検証



プロテオサイエンスセンター

実績: マラリアワクチン基礎研究

役割: ワクチンタンパク質の合成、
基礎実験

